

2025年10月24日



2025年度 全国内航海運青年経営者大会 in 松山

開催地・松山に130名以上が参集！！

【司会】
四海連・青年部 井村委員



全国海運組合連合会（全海運）は2025年10月24日（金）、愛媛県松山市内のホテルにて「2025年度 全国内航海運青年経営者大会 in松山」を開催した。

本大会は、四国地方海運組合連合会（四海連）、中国地方海運組合連合会（中海連）、九州地方海運組合連合会（九海連）、および関東連盟（関東沿海海運組合・静岡県内航海運組合・東北内航海運組合の青年部が統合）の4地区の青年部が、持ち回りで年1回開催している。

当日は、四国運輸局から来賓を迎え、全海運の正副会長をはじめ、他団体に加盟する青年経営者やメーカー関係者など、総勢130名を超える参加者が集まった。

今回の大会は、2023年に正式な委員会として発足した全海運青年部WG（村田担当副会長、渡邊座長、古中副座長、永田副座長、ほか委員11名の計15名で構成）による3回目の開催。外部講師を招き、業界の視野拡大と学びの機会を提供する形式で実施された。

開会にあたり、渡邊座長が挨拶を行い、四海連・青年部 福村委員長より大会の趣旨説明後、大会の幕が開けた。

当日のスケジュール

第1部

1. 開会挨拶
2. 各地区活動報告
3. 講演会「中小造船業の現状について」
（一社）日本中小型造船工業会

第2部

1. セミナー
無人運航船プロジェクト「MEGURI 2040」
2. グループワーク
3. 総括
4. 閉会挨拶

第2部終了後、懇親会を開催。

本大会のテーマ

「交流」と「経営力向上」

まず「交流」については、130名を超える参加がある本大会は、内航業界においても大変貴重な場である。人と人との出会いや情報交換、さらには互いの思いや考えを共有することで、有意義な交流が生まれることを期待。

また「経営力向上」については、造船業界など他分野を学ぶ貴重な機会として講師の方からご講演をいただく予定であり、特に業界の未来を見据えた「DFFAS（ディファス）プロジェクト」を通じて、現状の立ち位置や課題を再認識する場となることを期待。

今回の大会は「自社および業界課題に自ら気づき、解決に向かう」ことが目的。

第1部

各地区青年部活動報告

本年度の全国大会では、各地区青年部より、地域の特色を活かした活動報告が行われた。いずれの地区も、若年層への啓発や地域連携を通じて、内航海運業界の魅力発信と人材確保に向けた積極的な取り組みを展開している。（当日の発表は時間の都合上、関東連盟および中海連のみ。）

体験授業を通じた内航海運の魅力発信

東北内航海運組合では、小学生を対象に「チョークアートで学ぶ！内航海運の世界」を開催。絵を描きながら海運の役割を学ぶ体験授業として好評を博した。2024年は宮城県内の小学校で279名が参加し、地元テレビの取材も受けた。

2025年は東北地方で約450名の児童を対象に実施予定であり、より広い地域への展開を目指す。

また、関東沿海海運組合においては、館山海技学校では生徒・保護者向け説明会を開催し、若年層への関心喚起を図った。

さらに、船員の福利厚生充実を目的に、全海運及び東海内航海運組合の会議終了後にベネフィット・ワン担当者によるサービス紹介プレゼンも実施。

関東連盟

地域連携と若年層へのアプローチ

地域と連携した教育・広報活動を展開。福山市の児童養護施設児童を対象に、弓削商船高専の練習船「弓削丸」を活用した体験航海を実施し、子どもたちに内航海運の世界を身近に感じてもらった。

また、「広島海まるごと体験フェスタ」「くれ海博」など各地イベントにブースを出展し、クイズやバルーンアートを通じて一般市民に内航船の魅力を発信。

浜田・隠岐水産高校での就職ガイダンスや、向島ドック「造船所まつり」への参加など、地域・教育現場・事業者が一体となった活動を継続している。

11月には再び弓削島で体験乗船を予定している。

中海連

地域密着と新たなPR手法の挑戦

徳島県で婚礼事業者と連携した婚活パーティーを開催。内航海運と船員の仕事をテーマにした新しいPR手法として注目を集め、当日は6組のカップルが成立した。

そのほか、香川県では多度津高校での出前授業や就職フェア出展、徳島県では造船所見学・みなと祭りへの出展・体験乗船会などを実施。

高知県では高知海洋高校での出前授業に加え、宿毛市で船員の市民税減免制度が実現するなど、制度面でも成果を上げた。

教育・地域・行政を結ぶ活動として高い評価を得ている。

四海連

人材確保と社会人層への支援強化

「海運業の人不足は陸上の人不足にどこまで抗えるか」をテーマに、全国的な労働力不足の中での海運業の現状を分析。

2030年には全国で約644万人の人手不足が見込まれる中、内航船員の有効求人倍率は4.41倍、50歳以上が過半数を占めるなど、厳しい状況が続く。一方で、若手船員は増加傾向にあり、年収水準や休暇制度など労働条件の優位性も明確に示された。

今後は特に25～35歳の社会人層に向けた支援制度の拡充・新設を目指し、各関係機関と連携しながら持続的な人材確保体制の構築を図る。

九海連

(一社) 日本中小型造船工業会技術部 丸吉孝一氏による講演

「中小造船業の現状について（持続可能な内航船建造に向けて）」

第2部

「無人運航船プロジェクト MEGURI 2040」に関するセミナー

講師 (公財) 日本財団 海洋事業部 野本 圭介氏
 (株) 日本海洋科学 桑原 悟氏
 (株) 三菱総合研究所 先進技術・セキュリティ事業本部 武藤 正紀氏

本セミナー終了後、「無人運航と省力化技術について」をテーマにグループディスカッションが行われ、各グループの代表者による発表が実施された。

ディスカッションでは、無人運航技術が業界の将来を担う有望な方向性であるとの意見が多数を占めた。一方で、コスト負担、制度面の整備、責任の所在、現場での実務との整合性など、実装に向けたさまざまな課題も指摘された。

このため、今後は具体的な実証実験と制度整備を進めながら、段階的な議論を重ねていく必要があるとの意見も多く見受けられた。

大会の様子

▼グループディスカッション中の様子



青年部WG 渡邊座長▼



四海連・青年部 (全海運青年部WG委員) 福村委員長▼



▼全体の様子



青年部WG 村田担当副会長▼



本大会の最後に、村田青年部WG担当副会長（全海運副会長/四海連会長）は「業界PRを通じて内航業界の認知度を高め、次世代の担い手確保や業界の発展につながればと思う。また、こうした交流を通じて懇親を深め、業界全体がひとつの大きな輪としてつながっていくことを期待したい。」と述べ、その上で「自動運航については、造船を始め関係団体が日夜精力的に活動しているので、引き続き研究を期待したい。また、内航業界のどのような活動が有効か交流を深めていきたい」と結ばれた。

第2部終了後には懇親会が開かれ、四国運輸局の榎内海事振興部長よりご挨拶があった。続いて、四海連青年部プレゼンツによる『愛媛プロレス』の皆様の余興が披露され、会場は大いに盛り上がった。

その後、永田副座長の挨拶と乾杯のご発声により、懇親会の幕が開けた。

懇親会の様子



▼青年部WG正副座長、四海連・青年部 福村委員長、中海連 岡本会長(全海運副会長)、中海連・青年部 渡邊委員長ならびに委員



懇親会の締めには、中海連・青年部の渡邊委員長が登壇。

「来年は広島でやります！」と高らかに宣言すると、続けて「中海連メンバーは壇上に集まれ！」の掛け声に応じて、参加メンバーが次々と壇上に集合。

最後は中海連の岡本会長がマイクの前に立ち、軽快なマイクパフォーマンスを披露し、余興にちなんで力強く「内航海運ダー！」の掛け声で締めくくった。